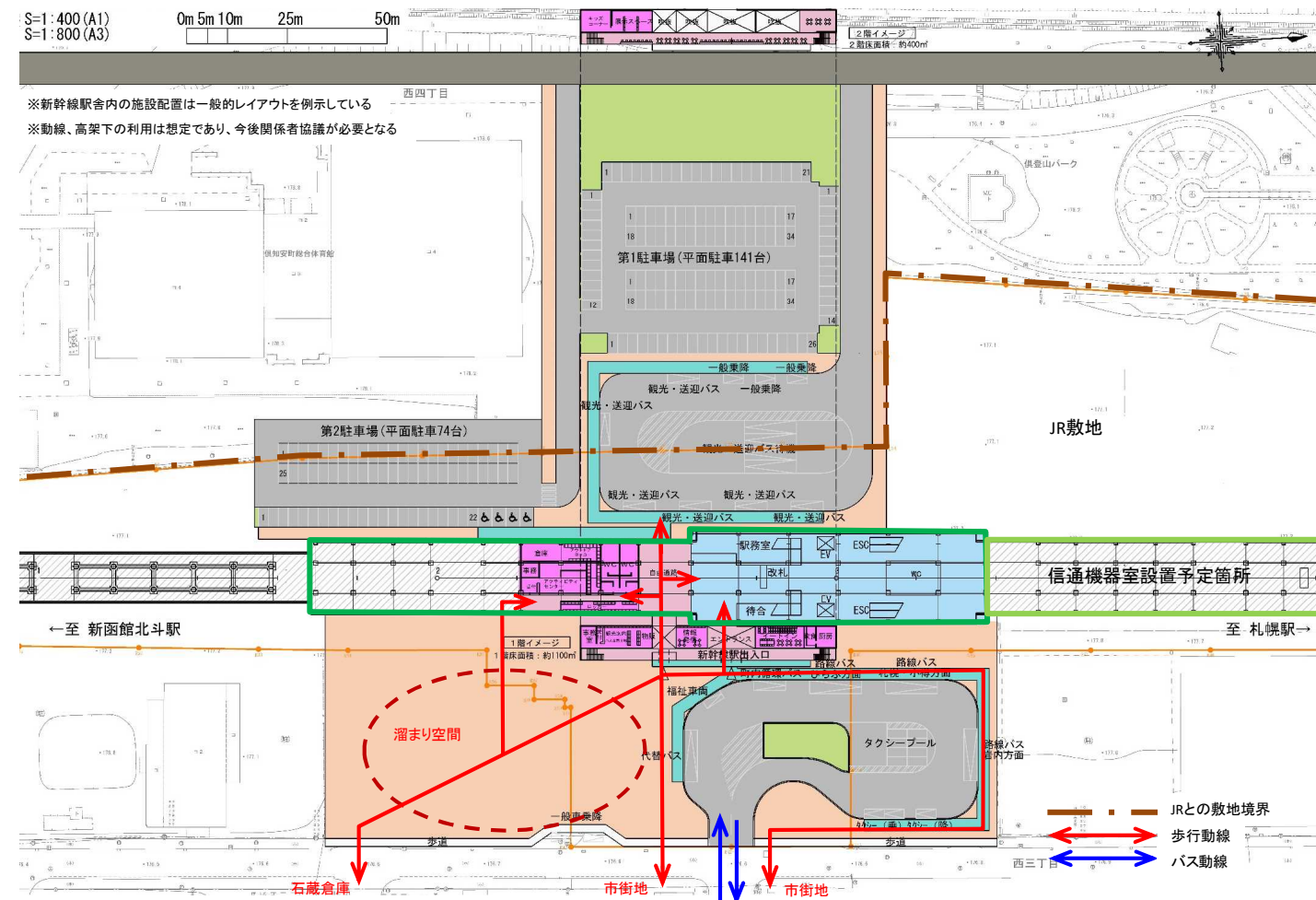
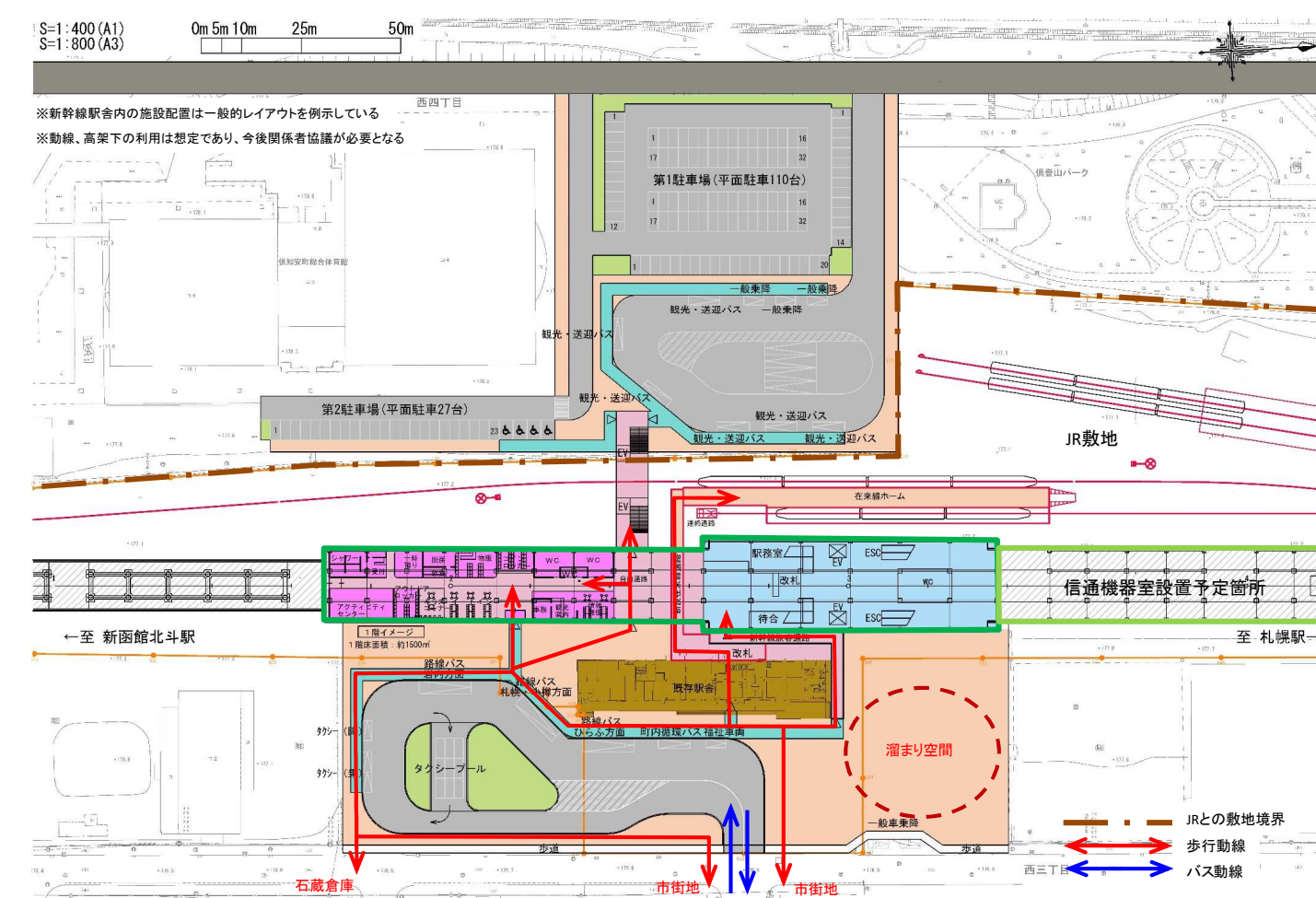


【在来線廃止の場合】※都市施設の位置及び内容は検討中です。



【在来線存続の場合】※都市施設の位置及び内容は検討中です。



北海道新幹線倶知安駅駅舎デザインコンセプト検討委員会 の検討結果について

- 倶知安町では、令和12年度末（2030年度末）の北海道新幹線倶知安駅（以下「新駅」という。）の開業を目指して、新駅周辺の整備に向けた取組を進めています。中でも、新駅駅舎は、アジアを代表するスキーリゾート地であるニセコエリアを背後地として抱え、羊蹄山麓地域の玄関口として地域のシンボルとしての役割を果たすことが期待されています。
- 現在、北海道新幹線の整備主体である鉄道・運輸機構を中心に駅舎整備に向けた検討を進めており、今後、当町において駅舎デザインコンセプトを要望していくことが必要となります。
- このような背景を踏まえ、令和２年度に「北海道新幹線倶知安駅駅舎デザインコンセプト検討委員会」（以下「検討委員会」という。）を立ち上げ、検討委員会において町民アンケートの意見などを踏まえながら、駅舎デザインコンセプトの検討を行うとともに、新駅駅前広場の整備に向けた検討も行いました。

北海道新幹線及び倶知安駅について

北海道新幹線は、函館市と小樽市付近を経由して札幌市に至る路線です。令和3年2月現在、新函館北斗～札幌間（線路延長212 km）の整備を進めており、平成27年1月の政府・与党申合せにおいて、沿線地方公共団体の最大限の取組を前提に、令和12年度末（2030年度末）の完成を目指しています。北海道新幹線倶知安駅は、現倶知安駅周辺の敷地に整備されます。



駅舎デザイン決定までの流れ

駅舎デザインが決定されるまでには、通常、４つの段階があります。今年度は、検討委員会においてSTEP 1の段階に向けて、駅舎デザインコンセプトの決定を行いました。（検討結果は、裏面参照）

STEP1: 鉄道・運輸機構が自治体に対して、駅舎デザインコンセプトの検討を依頼

STEP2: 自治体が駅舎デザインコンセプトを検討し、要望書にまとめ、鉄道・運輸機構へ提出

STEP3: 要望書の内容を受け、鉄道・運輸機構が駅舎デザイン素案(通常3案)を自治体へ提示

STEP4: 駅舎デザイン素案(3案)から自治体が推薦案を1案選定し、鉄道・運輸機構へ提出

北海道新幹線倶知安駅 駅舎デザインコンセプト検討委員会

令和２年度の検討委員会の開催概要は、以下のとおりです。

第1回検討委員会(令和2年8月24日開催)
・新駅に関するこれまでの検討内容の説明
・町民アンケートの実施概要の説明、調査票案の意見交換等

第2回検討委員会(令和2年11月4日開催)
・町民アンケートの結果報告
・駅舎デザインコンセプトに関する議論
・駅舎及び駅前広場の配置に関する議論

第3回検討委員会(令和3年1月27日開催)
・駅舎デザインコンセプトに関する議論・決定
・駅舎及び駅前広場の配置に関する議論・決定



第2回検討委員会の様子



第3回検討委員会の様子

1 駅舎デザインコンセプトの検討に関する町民アンケート調査結果

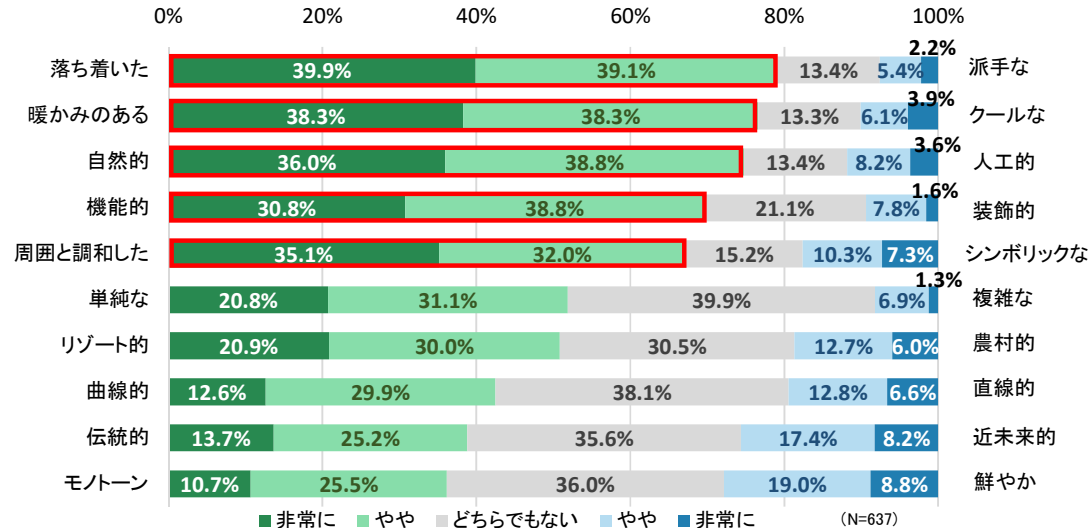
町内在住の15歳以上の方のうち、2,000名を対象に、新駅駅舎デザインコンセプトの検討に関するアンケートを実施しました。
調査結果の概要を以下にご報告いたします。

【調査概要】

- 調査期間: 令和2年9月1日(火)～9月18日(金)
- 対象者: 2,000人(うち外国人121人)
- 回収数: 681通(うち外国人18通)

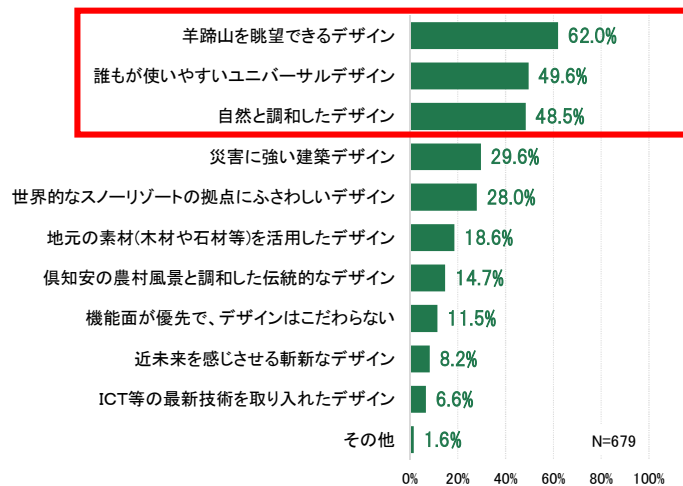
Q. 新幹線倶知安駅づくりを進める上で重視するキーワードは何ですか？

2つの相反するキーワードを用い、駅づくりを進める上で重視するキーワードを選択してもらいました。その結果、「落ち着いた」「暖かみのある」「自然的」「機能的」「周囲と調和した」のキーワードが、6割以上支持されました。



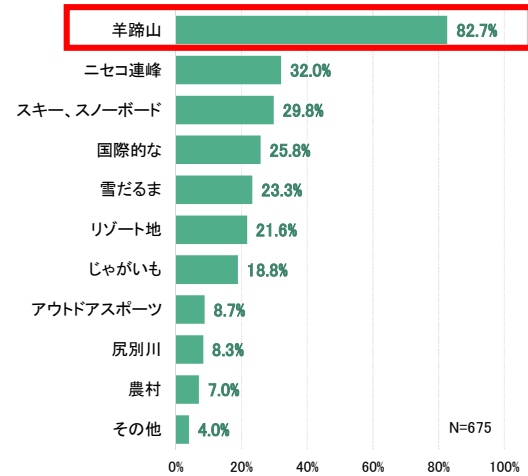
Q. 駅舎にふさわしいデザインは何ですか？

「羊蹄山を眺望できるデザイン」「誰もが使いやすいユニバーサルデザイン」「自然と調和したデザイン」の3つが多く回答されました。

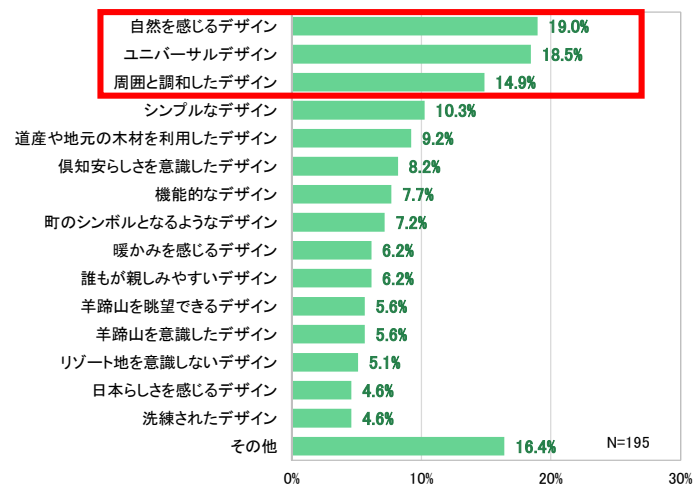


Q. 駅デザインにふさわしいキーワードやモチーフは何ですか？

回答者の8割以上が、「羊蹄山」を駅デザインに最もふさわしいキーワードと回答しました。



Q. 駅デザインに関してご意見・ご要望があれば教えてください。(自由記述)



「自然を感じるデザイン」「ユニバーサルデザイン」「周囲と調和したデザイン」の3つに関して、多く回答されました。

【頂いたご意見・ご要望(一部抜粋)】

- ・自然や羊蹄山や尻別川、ニセコ連峰、農村の暖かみあるイメージが感じられるデザイン。(女性、50代)
- ・大きな荷物の人が多いので、通路を広く、エレベーターも大きなものにして欲しい。(女性、40代)
- ・観光客だけではなく、地元住民も利用しやすくして欲しい。(男性、40代)

2 駅舎デザインコンセプトの検討結果

町民アンケートの結果及び新駅の役割等を踏まえた上で、検討委員会にて駅舎デザインコンセプトに関する議論を行った結果、駅舎デザインコンセプトは以下のように決まりました。
当町としては、このコンセプトをもって鉄道・運輸機構への要望書の作成を進めていきます。

羊蹄の四季の恵み ～ ふるさとと世界が出会う駅 ～

検討委員からの主な意見

- ・「羊蹄山」という言葉に意味が含まれていると思う。例えば羊蹄山が無くなれば、水も緑もパウダースノーもなくなる。存在としての「羊蹄山」はあった方が良いと感じた。
- ・倶知安を故郷としている方々のほか、従業員も高い割合で他の地域から来て、この地域に住み着き、故郷として住んでいる人もいる。他の地域よりも色々な人がいるため、「故郷」にはこだわりたい。
- ・倶知安は冬のイメージが強いが、夏にも良さがあるということで「四季」をキーワードに入れた方が良いと思っている。やはり世界が出会う駅というのは倶知安らしく、他の駅に無い特徴だと思う。
- ・羊蹄山はシンボルとして大事だが、羊蹄山麓を地域として考えるのではなく、日本海側の地域でもあるということも意識してはどうか。
- ・エリアの名前は、「羊蹄・ニセコエリア」が共通になる。羊蹄山の「山」を入れない方が良いのではないか。

3 駅前広場の配置に関する検討結果

駅前広場の整備方針については、平成30年度に策定した「北海道新幹線倶知安駅新駅周辺整備構想」及び令和元年度に策定した「北海道新幹線倶知安駅新駅周辺整備計画」において設定しており、これらを踏まえ、今年度は検討委員会での検討や関係機関との協議等を行いながら、駅前広場の配置計画の検討を進めてきました。検討委員会で検討を行った駅前広場の具体的な配置計画は裏面のとおりです。

なお、本図面は現在検討中のものとなりますので、決定したものではございません。

これまでの検討からの主な変更点

○横断道路の見直し(※下図の①参照)

駅北側に駅西側と東側を結ぶ横断道路の整備を検討していましたが、駅西側の駐車場整備方針の変更により横断道路の必要度が低下したため見直しました。

○駅前広場のバス・タクシーの乗降場の一本化(※下図の②参照)

バスとタクシーの乗降場を別々に配置することを検討していましたが、駅前広場の大部分が交通広場となり、歩行者の市街地への動線が阻害されることから、歩行空間や溜まり空間の確保を優先し、乗降場を一本化することとしました。一本化することで、交通広場の面積が縮小し、駅前広場の多様な活用が可能となりました。

